

亜高山帯

シマリス
リス科のは乳類。体長約23cm、体重90~165g。日本では北海道のみに生息する。秋になるとドングリなどの木の実を口に蓄え、冬眠に供える。



ホシガラス
スズメ目ガラス科。全長35cm。亜高山や高山の針葉樹林に生息し、ハイマツの実や昆虫などを好む。黒っぽい体に白い斑点があることからホシガラスと呼ばれる。



ハイマツ
マツ科マツ属。漢字では「這う松」と書いて這松。文字通り、全長2mくらいの低木。6月頃に開花し、翌年の夏から秋にかけて熟す。

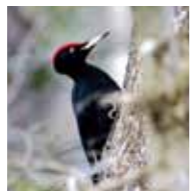


山地帯（針広混交林）

エゾシカ
ウシ目シカ科。草食性の反すう動物。ニホンジカの亜種で北海道全域に分布。雌は体長90~190cm、体重90~140kg。多発する農林業被害や交通事故の対策が進んでいる。



クマゲラ
キツツキ目キツツキ科。全長46cm。全身が真っ黒く、頭のてっぺんが赤いのが雄。雌は後頭部のみが赤い。アリが主食で、キャラキャラキョーンキョーンと鳴く。



エゾマツ
マツ科トウヒ属。北海道に自生する常緑針葉高木。高さ40mほど。トドマツとともに北海道を代表する針葉樹。アカエゾマツとあわせて「北海道の木」に指定されている。



低地帯（耕地防風林）

エゾモモンガ
ネズミ目リス科のは乳類。体重100gほどと小柄。夜行性で、愛くるしく大きな目が特徴。両手両足を広げ、体にある飛膜を使って木から木へと飛んで移動する。



フクロウ
フクロウ目フクロウ科。首が180度回転し、「森の番人」と呼ばれる。夜行性で、ノネズミやウサギ、小鳥などを餌とする。「不苦勞」と書き、幸運のシンボルとしても人気。

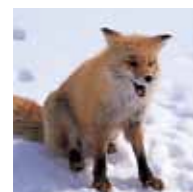


ミズナラ
ブナ科コナラ属。北海道の代表的な落葉広葉樹。30mほどの高さまで成長する。開花は5月、10月頃には2cmほどのドングリが成熟する。町の街路樹にも活用されている。



原生花園

キタキツネ
ネコ目イヌ科。北半球に広く生息するアカギツネの仲間。体長60~80cm、体重5~10kg。ふっくらとした薄茶色の尻尾は約40cm。ネズミや鳥、コウワなども食べる。



ノビタキ
ヒタキ科ツグミ亜科。全長13cm。雄は上面が黒く、翼に白い斑点、下面は白く胸はオレンジ色。雌は全身うす茶色。雄は渡来すると電線や茎にとまり、ヒーヒーヒョロリとさえずる。



エゾスカシユリ
ユリ科。草丈20~90cm。だいたい色の花弁の根元に隙間があり、内部を透かして見ることができたのが名前の由来。原生花園に多く咲き、小清水町の町花でもある。



湿原

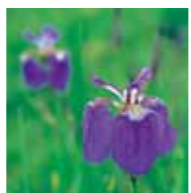
エゾヤチネズミ
ネズミ目ネズミ科。9~14cmほどの小型ネズミ。冬にさまざまな樹の皮をかじり、植林地などに甚大な被害を与えることも。



オオハクチョウ
カモ目カモ科。全長140cm。翼を広げると250cmもある。全身純白でくちばしの基部が黄色、先端が黒い。脚も黒色。コォーと甲高くのびる大声で、よく鳴き交わす。



ヒオウギアヤメ
アヤメ科。北海道や本州中部以北に多く分布する多年草。草丈は30~90cm。6~8月にかけて宮中で用いられた「檢扇」(ひおうぎ)に似た葉と紫色の花をつける。



海浜

ミンククジラ
ナガスクジラ科。ヒゲクジラの仲間では2番目に小型種。体長8m前後。体重5~10t。餌はオキアミや小魚。小清水町沿岸では主に4~10月頃に観察できる。



ハマナス
バラ科。100~150cmの落葉低木。寒冷地の海外沿いに分布する日本の代表的な野性バラ。英語名はJapanese rose。花に上品な芳香があり、実はビタミンが豊富。



オジロワシ
タカ目タカ科。雄の全長は80cm、雌95cm。翼を広げると約2mになり、陸鳥としてはオオワシと並んで最大級の大きさを誇る。天然記念物に指定されている。



第二章「大自然の多様性」をつむぐ

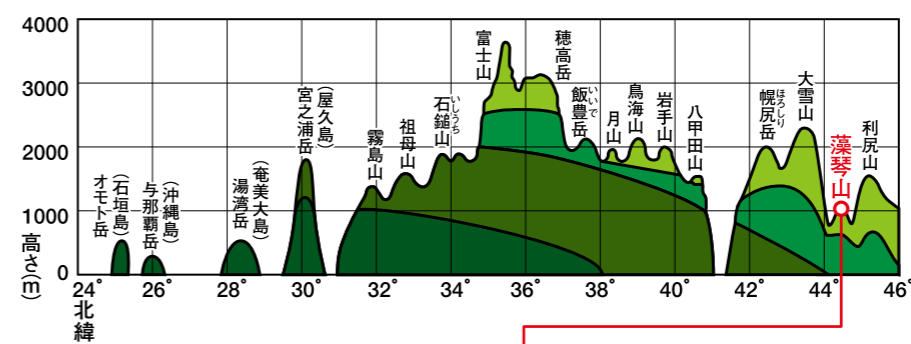
海、山、湖に恵まれた小清水町
大自然の鼓動が刻む多様性のリズム

小清水町動植物大図鑑

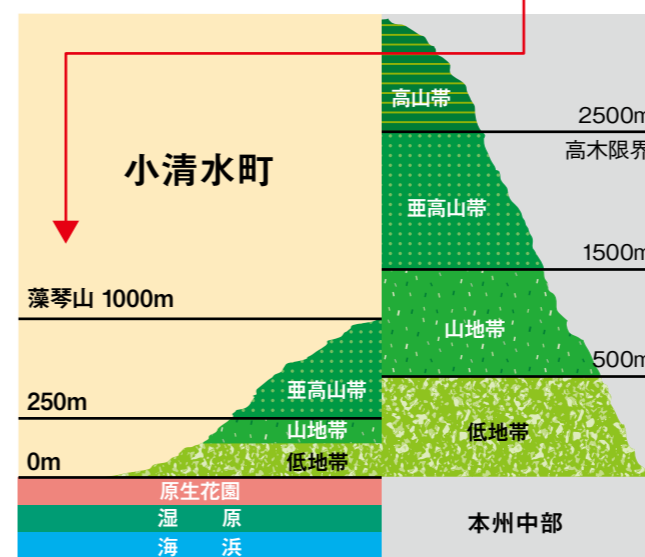
オホーツク海沿いに広がる原生花園をはじめ、
標高1000mの藻琴山、
道内最大級の渡り鳥の中継地・濤沸湖など、
海・山・湖に恵まれた小清水町には、さまざまな動植物が生息している。
大自然が育む豊かな生態系が守られている。



A. 植物群系の垂直分布比較（国内緯度別）



B. 本州中部と小清水町の植物群系の垂直分布比較



多様な植物分布が
縦に凝縮した藻琴山
北海道にあたる。
そこから小清水町の藻琴山
を拡大した図が、「B・本州中
部と小清水町の植物群系の垂
直分布比較」である。本州では
1500~2500mの高さに
まで行かないと見られない亜高
山帯が、藻琴山では2500~
1000mのエリアに該当する。
多様な植物の生息が縦に凝
縮した藻琴山ならではの自然
観察は、いまでも昔も変わらな
いまちの宝物のひとつになっ
ている。